

メタ認知活動を促進するビデオセルフモデリングを活用した 授業設計のアプローチ —短期大学幼児教育課程における実践—

An approach to instructional plan using video self-modeling to promote metacognitive activities - Practice in college early childhood education courses -

濱田 美晴^{*1}, 山本 英作^{*2}, 岸 康人^{*2}
Miharu HAMADA^{*1}, Eisaku YAMAMOTO^{*2}, Yasuhito KISHI^{*2}

^{*1}高知学園短期大学歯科衛生学科

^{*1} Department of Dental Hygiene, Kochi Gakuen College

^{*2}高知学園短期大学幼児保育学科

^{*2} Department of Early Childhood Education and Care, Kochi Gakuen College
Email: mhamada@kochi-gu.ac.jp

あらまし：幼児教育課程の教職実践演習と ICT 教育を連携する取り組みにおいて、メタ認知活動を促進させる授業設計を試みた。学生自身が客観的に行動改善を行うビデオセルフモデリング（VSM）に着目した本取り組みは、模擬保育動画の視聴、シーンのトリミング、テロップ入れなどのプロセスを通して、内発的動機付けと指導実践力が向上することが示唆された。本研究では、2016 年度から改善を重ねながら実践してきた VSM を活用した授業設計のアプローチについて報告する。

キーワード：ビデオセルフモデリング、メタ認知活動、授業デザイン、PDCA

1. はじめに

高知学園短期大学幼児教育課程の「教職実践演習（幼稚園）」では、「運動遊び」に重点を置いた模擬保育を実践し、学習者のふりかえりに保育実践の動画を活用している。報告者らは、この取り組みを強化することを目的として、2016 年度より「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」との連携授業を試みた。その中で、①教育の立案・実践・ふりかえりの十分な時間の確保、②ICT の技術的・実践的スキルの獲得、③自立性と協働力の効果、④内発的動機付けを高め学修の質保証を向上、⑤客観的なふりかえりによる PDCA、などの効果を確認している⁽¹⁾。これらの学修成果は、ビデオセルフモデリング（VSM）⁽²⁾ によって展開され、メタ認知活動（客観的な自己分析により学習者自身の行動改善を図る）を促進する効果が示唆された。

本研究では、附属幼稚園で実践した模擬保育の動画を活用し、肯定的な姿を意識的に観察して行動改善を促す VSM を用いた授業設計のアプローチに焦点をあてて、紹介する。

2. VSM を活用した授業設計

2.1 教職実践演習の到達目標

報告者の担当する教職実践演習では、以下の3点を到達目標として、5回の授業の中で、指導立案と附属幼稚園での保育実践を行っている。また、観察評価とグループ討議によるふりかえりにより、指

導実践力向上を図っている。

- [1] 学外実習で観察した「子どもの姿」をふまえて発達段階（3,4,5 歳）に応じた運動遊びを立案することができる
- [2] 附属幼稚園の子どもたちの前で指導・援助を実践することができる
- [3] 受講生はお互いの指導実践を観察評価しながらディスカッションを通して「指導・援助のポイント」を確認し合うことができる

2.2 ICT 教育を連携する取り組み

前述の活動のグループ討議とふりかえりには、保育実践を撮影した動画を用いている。この模擬保育の動画をより効果的にするために、教育の方法及び技術で VSM を活用した授業設計によるアプローチを行った。2023 年度は、本活動の改善を目的として、8回の授業で構成していた VSM の設計を15回に拡張し、実践を試みた。以下に ICT 教育を連携した授業設計の概要を示す。

- [1] 指導案の意義と作成：子どもの発達段階に応じた目標づくり—子どもの主体的な学びを支えるために、子ども理解や一人ひとりに応じた保育について探求する—
- [2] 子どもの様子を観察する：附属幼稚園の普段の子どもの姿を撮影して、子どもの言動や表情から思いや考えなどを理解し、受け止める力を養う

- [3] ふりかえり：指導計画のあり方を客観的に捉えるー授業分析を通じた課題設定による動画編集作業ー
- [4] プレゼン作成：動画をプレゼンに取り込み、子ども理解を深める
- [5] 修正指導案：ピア評価と動画から得られたふりかえりを指導案にフィードバック
- [6] プレゼン：ふりかえりの発表
- [7] レポート作成：個人のふりかえり

また、この前段階としてツール（Clipchamp）の使い方と動画編集の意義について学ぶ。保育実践の動画はこの後のメタ認知活動にも大きく影響することから、撮影のポイント（指導案と照らし合わせながら）や撮影方法に対する知識と手法を共有する。

上記[1]から[6]は Microsoft Teams を活用し、チームでディスカッションを深めながら協働作業を進める。最終的に、[7]のレポートによって内省を促し、個人のふりかえりに繋げることで、学習者自身が学修成果を確認しながら PDCA を回す中で、メタ認知活動が促進される。

3. メタ認知活動を促進する VSM アプローチ

VSM を活用した授業設計は、撮影・視聴・編集するプロセスにおいてパフォーマンスを上げることを目的とし、目標達成に向けて主体的に行動できるように促す。自己を客観的に観察することに焦点をあて、当事者意識を持たせるには、背景や意図を含めて理解してもらうことが重要となる。これを効果的にする方法として、シーンのトリミングとテロップを用いた授業設計を提案する。さらに、ふりかえりが自己あるいはチームにフィードバックされるよう、プレゼンテーションと指導案修正にも動画を活用する仕組みを作り、メタ認知活動に繋げている。

3.1 シーンのトリミング

シーンのトリミングには、必要なことを過不足なく盛り込んだうえで、編集することが肝要である。視認性の観点から、編集後の時間を5分から活動時間の約半分程度に制限している。また、シーンとシーンのつなぎ目や表示時間など、視聴者側の視点を意識することで、より客観的に自身の活動をふりかえる。これにより、学習者は、何度も視聴を繰り返しながらシーンのトリミングに取り組む姿が見られた。さらに、教職実践演習のピア評価（学生同士が模擬保育の実践を見て評価し合う）を用いることで、他者の意見と自身の行動との照合や相違について、動画から理解を深めていた。このことは、VSM の最大の利点であると、推察される。

3.2 テロップの効果

自身の行動改善に繋げることに焦点をあてた本取り組みでは、トリミングしたシーンにテロップを挿

入することで効果を高めている。テロップの効果は、視聴者を特定のポイントに注視させることに加え、内容の理解を助ける。さらに、情報量を増やせる効果や映像を魅力的にし、より幅広くアプローチする効果がある。

テロップを用いた編集の一例として、「おもいきり体を動かす楽しさが味わえるよう図形と図形の間隔を工夫する（環境構成の工夫）」のように、行動のみを記述するのではなく、目的や保育者側のねらいを明記することで、メタ認知に繋げている。

3.3 メタ認知活動（協働学習の効果）

VSM によって獲得されるメタ認知は、図1が示すように、客観的な自己分析が自身の行動改善を促すことにある。本研究では、課題を解決するプロセスにおいて、チームで協働しながら改善の方向性と自己コントロールを身に付け、自身とチームの成長に繋がること、示唆された。

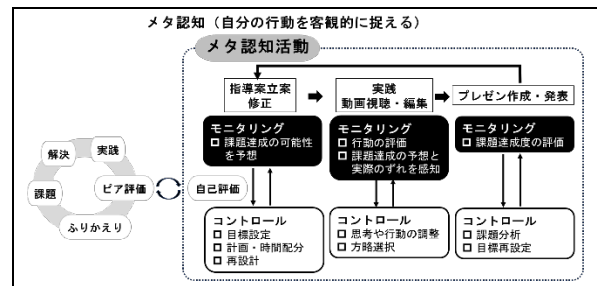


図1 ビデオセルフモデリングのメタ認知活動

4. 終わりに

VSM の授業設計によって、学修成果を学習者自らが獲得し、指導実践力向上に繋がるメタ認知活動が認められた。現在、附属幼稚園と教室を結んだりアルタイムなディスカッションの有用性について模索中である。学生の子ども理解を助ける機会を確保するために、オンライン・オンデマンド動画を活用した VSM の授業設計アプローチについて、検討を深めていきたい。

また、この授業設計によるアプローチは、他の専門教育科目と連携する様々な取り組みへと発展できる可能性を持つ。報告者が所属する歯科衛生学科の歯みがき指導（保育園・幼稚園・小学校で実践）に VSM の授業デザインモデルを応用することで、個別最適な学びと協働的な学びを支援し、メタ認知活動に繋がるのが期待される。

参考文献

- (1) 濱田美晴, 山本英作: “動画教材の客観的なふりかえりの効果に着目した新しい ICT 教育の実践”, 私立大学情報教育協会, 2021 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会資料集, pp.202-205. (2021)
- (2) Dowrick P. W.: “Self-modeling, In Dowrick PW and Biggs SJ (eds), Using video: Psychological and social applications.”, Willy, Chichester., pp.105-124. (1983)